

を閉じて聞こう)。

[先生] Let's listen to the CD. I want you to think what's the story about.

Step 2 モデルを練習しよう。

①まずは生徒同士で練習

[先生] Next, let's practice the conversation. The students on the right hand side are part A. The students on the left hand side are part B. You can read the text. OK? Start!

②CDのシャドーイングで発音を修正

シャドーイングとはCDより少し遅れて発音し、CDを聞きながら、自分の発音をCDに似せていく音読の方法である。

Step 3 食事を勧めたり、注文したりするときの表現を練習しよう。

[先生] OK. Let's practice the useful expressions. Listen to the CD carefully and repeat it.

Step 4 アイコンタクトを意識して友達と会話をしよう。

[先生] Let's go to Step 4. I want you to talk with many friends. You have 2 minutes. When you talk with your friend, try to keep eye contact. OK? Ready go!

Step 5 次の場合何と言うか、英語で書いてみよう。

[先生] Lastly I want you to write your answer at Step 5.

ここは宿題にすることもできる。

## (2) アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う

アクティブ・ラーニングの基本的な活動方法にペアワークがある。Step 2以降はペアでの活動になるので、生徒は自然にペアワークの活動に慣れていくことができる。そして、ペア活動の基本を『Step Up Talking』で身につけ、教科書などでも同じ活動ができるように広げていくこともできる。シンプルにパターン化された活動を通して、「英語でアクティブ・ラーニング」を行う経験を増やしていくことができる。

## (3) 入試に Speaking テスト、Writing テストを含む4技能のテストが導入される

TEAP や GTEC CBT の Speaking テストで出題される形式として、次のようなものがある。これらも『Step Up Talking』の活動で自然に慣れることができる。

①会話文の片方の役を音読する

→『Step Up Talking』の Step 2 の活動と同じ。

②絵の内容を英語で説明する

→Step 1 で聞こえてきたことを絵で表す活動をするとうい。描いた絵を使って、わかったことをペアで話す活動をすれば、この問題に対応できる(浜島書店のHPに動画が掲載されている)。

③自分の意見を話す

→Step 4 では会話の流れによって自分の考えを話すことになる。自分の考えを話す基礎的なトレーニングになる。

中学では大学入試を意識させる必要はないが、『Step Up Talking』を使えば大学入試にもつながる基礎力を中学時代に育てることができる。

英語教育の変化に対応する授業を『Step Up Talking』を使って多くの先生に行っていただきたい。

『Step Up Talking』 Course 3

## 教材活用シリーズ 第85回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などをご紹介します。

# 『Step Up Talking』で今求められている英語の授業を

(株)浜島書店 『Step Up Talking』



やまもと たかお  
**山本 崇雄**  
(都立両国高等学校  
・附属中学校 主幹教諭)

1970年生まれ。都内公立中学校を経て、現職。  
2011年ケンブリッジ大学にて研修。アクティブ・ラーニングの活動を通して自学力を育てる指導を行っている。

著書・論文・教材に『たのしい劇脚本集Ⅰ・Ⅱ』（国土社・共著）、「ことばには力がある～英語ミュージカル、ディベートを目指して気づかせたいこと～」（『英語教育4月号（2009）』大修館書店）、『英語のたてよこドリル』（正進社）ほか。

### 1. 英語教育の変化

現在、英語教育は大きく変わろうとしている。文部科学省は、中学校の英語の授業を原則英語で行うことなどを盛り込んだ「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」（2014年）を発表した。2020年の完全実施を目指し、2018年から段階的に実施する計画である。また、次期指導要領ではアクティブ・ラーニングで能動的に学ぶといった、学び方にも言及する流れになっている。さらに、「高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革」では、英語試験の4技能化も提言され、すでに、TEAP、GTEC CBTといった4技能を測るテストを入学試験に導入している大学もある。今後、この変革の流れは急速に進むと予想されている。

まとめると次の3点をふまえて英語の授業を行う必要がある。

- (1) 英語の授業は英語で行う
- (2) アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う
- (3) 入試にSpeakingテスト、Writingテストを含む4技能のテストが導入される

この変化はこれまでにない大きなものになるであろう。学校現場からは戸惑いや不安の声も聞こえる。そこで、『Step Up Talking』を使ってこれらの変化に対応した授業を提案したいと思う。『Step Up Talking』を使えば、これらの変化に対応した授業を誰でも行うことができるであろう。

### 2. 『Step Up Talking』を使ったこれからの英語授業

#### (1) 英語の授業は英語で行う

『Step Up Talking』は毎回同じパターンで構成されているので、生徒はすぐにやり方を理解できるだろう。先生の指示する英語（Teacher Talk）も毎回同じですむので、先生の指示がわからないということは少ない。「英語の授業は英語で行う」の核を『Step Up Talking』で作ることができる。実際に、『Step Up Talking』 Course 3の「3 Would you like ～?（食事の注文）」を例に英語で進める授業を再現する。

Step 1 CDを聞いてどんな場面か考えよう（本